

事業所名

というN-Style

支援プログラム

作成日

令和7 年

4 月

25 日

法人（事業所）理念		個々のスペック、多様な価値観、なりたい自分、なれない自分。 全てを受け入れ尊重し合い、障がいという概念を無くことで心理的安全性のある社会を築く。					
支援方針		というでは苦手を克服させる強制的な支援ではなく、お子様の得意や好きを伸ばすことで、一人ひとりの自信に繋げる為の支援に力を入れています。 活動を通して個々の興味、関心を最大限に広げ、好きや得意等の強味を見つけ一人ひとりに寄り添い、自己肯定感を阻害せず社会と向き合っていけるマインドを育みお子様の可能性を最大限にひろげていきます。					
営業時間		11 時	0 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	食生活の指導や公園遊びで適度に日光（1日15分程度）に浴び、有酸素運動を行う事でセロトニンを増やし、睡眠時セロトニンがメラトニンに変換されることで、良質な睡眠の支援となる。					
	運動・感覚	原紙反射の統合から、視覚・触覚・固有感覚・前庭感覚の感覚刺激を満たし、それぞれの感覚の協応を、運動で繰り返し刺激していく事で、正しい身体の使い方を獲得していく。					
	認知・行動	継続的な運動を通して、脳神経を整える事で雑音を無くし、前頭葉を活性する事で適切な気持ちのコントロールを支援する					
	言語 コミュニケーション	職員や他児との運動や遊びを通して、言語理解を深め、正しいコミュニケーションを支援していく。 児童通しのコミュニケーションで難しい場面においては職員が仲立ちして、気持ちの代弁等のサポートを行う。					
	人間関係 社会性	活動を通して、職員や他児と関係を構築し、というでのルールや外出時のルール等、コミュニティーの中で社会性を育めるよう支援する。 外出時には危険予測や危険回避ができるようルールを伝える時に起こりうる危険の可能性を伝えていく。					
家族支援		【健康・生活】内容が家族支援となる。 というでの効果的な支援内容は、保護者と共有を行い包括的に支援していく。			移行支援		【言語・コミュニケーション】が移行支援に繋がる。 というで学んだソーシャルスキルを学校や外でも般化できるよう支援する。
地域支援・地域連携		【人間関係・社会性】の支援が地域地域連携・支援に 繋がるよう、というの外でも他者との関わりを持てるように支援していく。			職員の質の向上		外部研修や内部研修で座学を学び、直接支援でアウトプットする事で、トレーエラーをくり返し答し、質の向上に繋げる。
主な行事等		日々： プログラム確認・毎日の運動3種のプログラム・おやつ・学習・活動の振り返り 定期的：クッキング・創作活動・戸外活動 年間イベント：花見・水遊び・ハロウィン・クリスマス					